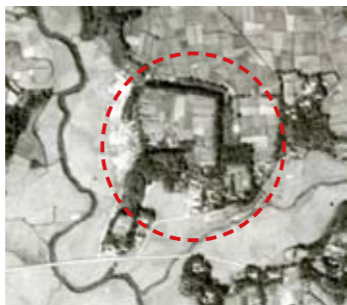


なかごう
中郷地区

都城市南西部に位置し、山地と麓の台地と扇状地からなる中郷地区。平安時代に島津荘を開いたといわれる平季基の館跡の伝承地が残っているほか、中世の山城や陣跡・寺社はじめ、この頃の遺跡が数多く残されています。

①梅北城跡（梅北町）中世 P26 37 柱

梅北川の右岸に位置しています。南北朝期に南朝方の拠点となり、その後は島津氏・新納氏・伊集院氏などの手を渡し、最終的に北郷氏（都城島津氏）の支配するところとなりました。現在は私有地となっています。



梅北城跡航空写真（昭和22年米軍撮影）



梅北城跡の空堀（平成9年撮影）

②上久保遺跡（梅北町）古代

昭和34年（1959）の水田をつくる工事に、軽石の外容器に入れられた経筒が見つかりました。発見当時、経筒内には割箸状の木片が15本くらい入っていました。経筒の口の部分にはお経を書いた紙の一部が残っていました。



経筒（高さ：31.1 cm）

③梅北北原遺跡（安久町）縄文

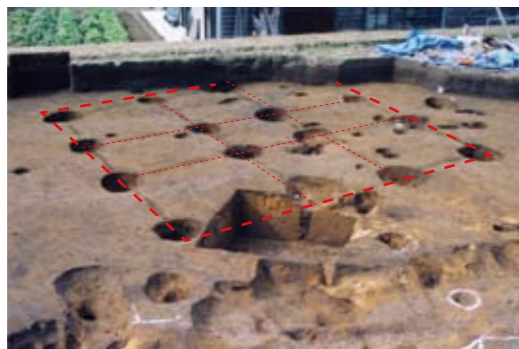
中郷中学校の校舎を建て替える時に発掘調査を行いました。遺跡は、縄文時代（早期）の集落跡で、当時の調理施設である調理施設である集石のほか、土器や石器が見つかりました。



集石：こぶし大の石が使われている

④上安久遺跡（安久町）縄文 弥生 古墳 古代 中世 近世

新しい道路をつくる時に発掘調査を行いました。縄文時代から江戸時代までの遺構や遺物が見つっています。特に中世以降のお墓が多く見ついているほか、石で舗装された道路跡も見つっています。当時の道路は、地面を掘りくぼめ、土をつき固めた程度なので、この道路が、他とは違うつくりの道路だったことがわかります。



中世の建物跡（丸い穴が柱が建っていた場所）



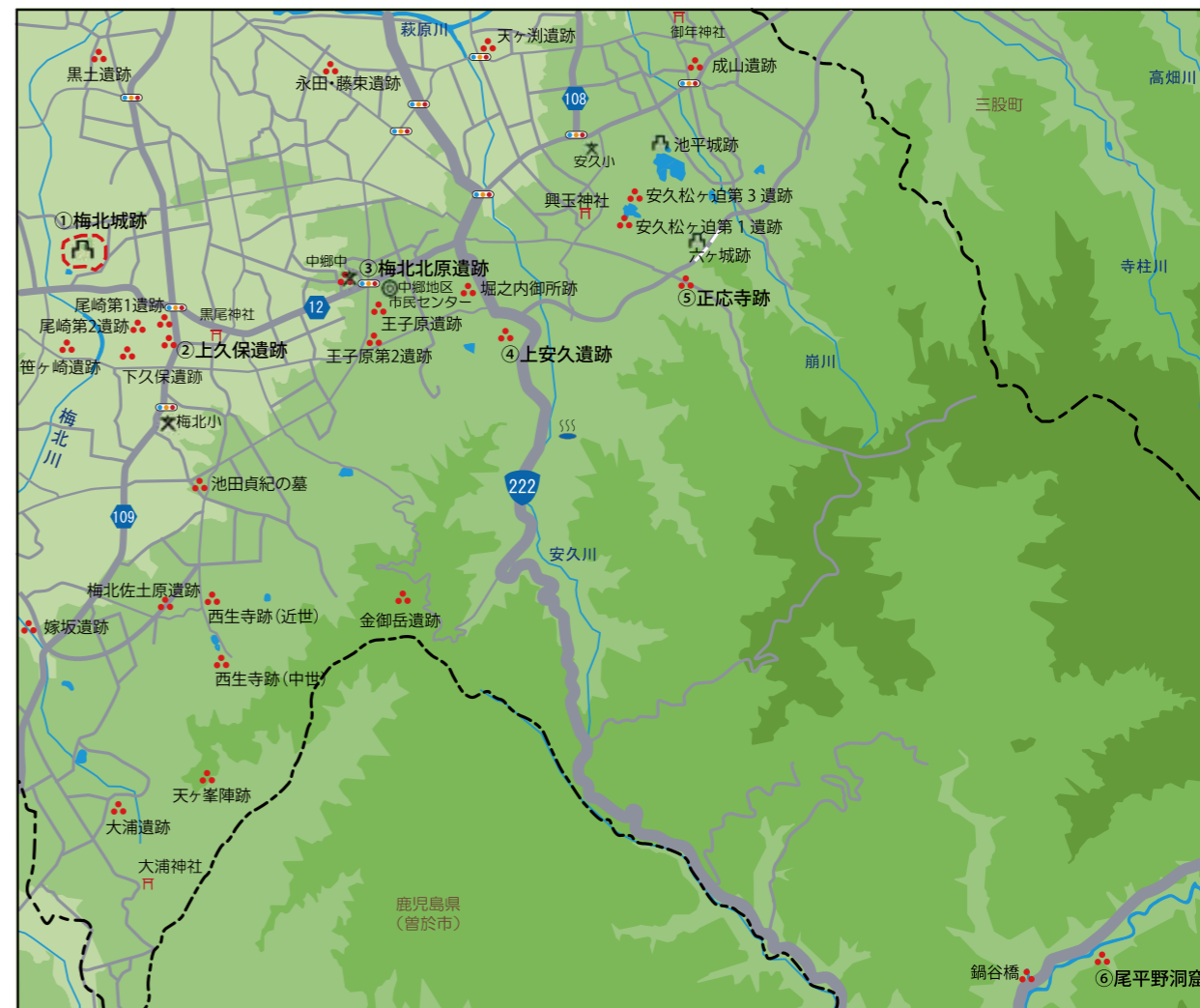
中世の道路跡：小さな石が敷き詰められている



平安時代末～鎌倉時代にかけてのお墓からみつかった銭
同じくお墓からみつかったお茶碗→
（中国でつくられたもの）



縄文土器



⑤正心寺跡（安久町）古代 中世 近世

この寺は、仁安元年（1166）に建立されたといわれています。廃仏毀釈によって廃寺になりましたが、現在も、寺の建物の土台や石塔などが多数残されています。



白磁の四耳壺
中国でつくられた釉薬のかかった壺。肩（壺の口の下）に四箇所とつのような耳が付いているので、四耳壺と呼ばれている。

⑥尾平野洞窟（安久町）縄文 P9

縄文時代（後期～晩期）にここで人々が暮らしたと考えられています。当時の土器や石器とともに、当時の人々が食べたと考えられる動物の骨や貝殻が見つっています。現在、都城で唯一確認されている洞窟遺跡です。



洞窟内の様子



石斧



イノシシの下あご

【その他の遺跡と史跡】

黒土遺跡（P5に説明）・成山遺跡・笹ヶ崎遺跡・梅北佐土原遺跡：縄文時代 / 堀之内御所跡・池平城跡・六ヶ城跡：中世
永田・藤束遺跡・尾崎第2遺跡：平安時代 / 安久松ヶ迫第1遺跡・安久松ヶ迫第3遺跡：平安時代（経筒）
天ヶ淵遺跡：縄文時代・古代～近世 尾崎第1遺跡：古墳時代・近世 / 下久保遺跡：古墳・古代・中世（平季基館跡伝承地）
嫁坂遺跡：縄文時代・中世 / 王子原遺跡・王子原第2遺跡：縄文時代・古代 / 西生寺跡・金御岳遺跡：中世・近世
大浦遺跡：縄文時代・弥生時代 / 鍋谷橋：近代（明治時代）